

# 長野大学附属図書館の 改善案

企業情報学部 2年 村田 充

## このテーマを選んだ理由

先生や最近の若い人たちは、デジタルデバイスを主としたものを未来の図書館の理想像として描いていますが、私は紙媒体には紙媒体にしかない良さがあると強く感じているので、お互いの良いところどりをしたような読書空間について考えてみたいと思ったから。

これはもう「図書館」と呼ぶべきではなく新しい概念の誕生だと私は考えているため、「読書空間」と呼ばせてもらう。公共の施設は素朴でなければならないという固定概念を取り払いたい。

## 現在の図書館の長所と課題

### 長所

- ・学習スペースが十分に設けられている
- ・個別のスペースがあり、集中したい人のための設備がある
- ・ソファの座り心地が良い

## 課題

- ・読みたい本がない
- ・ほとんど学習スペースとして使われている
- ・全体的に本が古い
- ・広すぎて、どこをどう使っていいのかわからない

## 課題解決のための改善案

- ・読みたい本がない
  - 読みたい本を取り寄せられる制度をもっと大々的にアピールする
- ・ほとんど学習スペースとして使われている
  - 学習スペースがあるのは良いことなのでそこはそのまま、本に関してのおすすめなどの情報を掲載する
- ・全体的に本が古い
  - 新しい本にお金をかけて入荷しても実際に読んでもらえるかわからないので、先に利用者を増やす
- ・広すぎて、どこをどう使っていいのかわからない
  - 図書館の入口に、館内マップのようなものを用意する